

2023 年度 一般選抜中期日程／国際商学科 英語  
出題の意図と解答の傾向

I (160点)

英語を実際に使用する能力が身につけているかを見るために、設問もすべて英語とした。

問1 (15点)

【解答】

d (the benefits of cognitive offloading)

【解答の傾向】

技術を用いた認知的負荷の低減に言及した部分である。続く段落では認知的負荷低減の欠点を指摘しているが、本段落は電話機に電話番号を覚えさせることや、GPS ナビゲーションの例を通じて、認知的低減の説明とその利点に言及している段落であり、dが正答となる。

問2 (30点)

【解答例】

基本的な操作を忘れてたり、覚えられなくなったりすること。(26字)

負荷低減の価値を過大評価することで、自信過剰になること。(27字)

【解答の傾向】

第4段落の First 以降の内容と、第5段落の Second 以降の内容を30字程度にまとめる。

的確に内容をまとめた答案も一定数あった。他方、主語と述語が対応していない、目的語が無いなど、日本語として成立していない解答も少なくなかったのは残念だった。英文の文意が読み取れない場合も、工夫を望みたい。字数が不足しているものも少なくなかった。

問3 (20点)

【解答例】

航空機の操縦の際には、慎重に選ばれ高度な訓練を受けているパイロットでもこれらの欠点を経験することがある。

【解答の傾向】

文頭の “In aviation” は「飛行においては、操縦の際には」という意味であるが、これを訳出できたものはいなかった。「航空機産業では、航空業界では」という訳がつけられたものは、よく勉強できている方である。当該箇所を空欄にするもの、“in addition” と解したのか、「さらに、加えて」とするもの、「特に、実際」などとするものが多かった。

deficits (欠陥) の単語の意味がわからず、単に「これら」とするものが多く、「赤字」とするものなどもかなり見受けられた。また、can を「できる」とする解答が多くあった。この場合の can は「～がありうる」という可能性を示している。

“carefully selected and highly trained pilots” を「注意深い選択と高度な訓練を受けたパイロット」のように、二つの主語とした解答がかなりあった。“carefully selected” と “highly trained” は、両方とも pilots を修飾している。

#### 問4 (20点)

##### 【解答例】

新しい技術を安全に実行するには、パイロットが技術の限界を理解する手助けをするための広範な訓練と定期的な更新が必要になる。

##### 【解答の傾向】

“The safe implementation of new technologies” まだが主語で、動詞 requires の目的語が “extensive training” と “constant updating” となっている。しかし、主語、述語、目的語を構造的に理解できず、文章が成立していないものも散見された。

単語に着目すると、implementation (実行) や、extensive (広範囲の、大量の) の意味が分からず、含意 (implication)、重要性 (importance)、検査 (inspection) と訳したり、激しい (intensive) などと訳したりしている解答があった

#### 問5 (25点)

##### 【解答例】

自動運転車における人的要因による問題を解決すること。

##### 【解答の傾向】

下線部直後に “for example” とあることから、“Tesla’s Safety Score Beta” は前文の “Proposed solutions” の具体例であるとわかる “promising but have yet to reach~” という部分から、“Proposed solutions” はまだ許容できるものになっていないと読み取れる。

“Tesla’s Safety Score Beta” は、テスラ車の所有者の運転の癖を監視し、基準に適合した場合に自動運転の特性を有効にするものと説明されているが、段落後半でその欠点に言及している。

以上の文脈を読み解くことができると、“Tesla’s Safety Score Beta” の目的という設問の解答として、上記の解答例を導出できる。上記の文脈を理解するのが難しかったようで、解答には様々なパターンがみられた。また問題文で “in Japanese” と指示しているにもかかわらず、英文で解答したものも散見された。

問6 (15点)

【解答】

ア. success                      イ. depend[rely]                      ウ. also

【解答の傾向】

アは、success (成功) の綴りを間違っているものがかなり多かった。

イは、「～によって決まる」であり、“depend[rely] on ~”となるが、determineを記述している答案が多くあった。空欄の後に on が続いているため、この点を意識して解答してほしい。

ウは、“not only~, but also~”の頻出構文であり、正答が多かった。

問7 (20点)

【解答】

A. involving                      B. attributed[attribution]                      C. led                      D. goes[has gone]

【解答の傾向】

受験生の文法能力、文章の言語関係を読み取る能力を見る問題であるが、全問正解したものはいなかった。正解もたまたま一つが当たったという感じのものがほとんどで、選択された答えも一貫性がなかった。本問を見る限り、全体的に本当の意味での文法能力がついているとは思えない。今後、大学の学習でのさらなる研鑽を期待したい。

Aは「自動運転技術に関わる事故数の増大」であり、involveを選ぶ。accidentsの内容を説明する後置修飾にするため、現在分詞形にする。

Bは、“in part”が挿入句で、“be attributed to ~”「原因は～にある」という表現を選ぶ。

Cは、認知負荷低減による自信過剰が航空業界での事故につながっているが、同じ種類の自信過剰が自動車運転の事故につながるという意味で、“lead to”となる。空所の前にhasがあるので現在完了形だと考え、過去分詞にする。

Dは、空所の後ろに“hand in hand”があるので、“go hand in hand”「密接に関連している」を選ぶ。主語がimplementationで単数なので、3人称の(e)sをつける。

問8 (15点)

【解答】

a (It is true that self-driving technology is quite useful, but it is dangerous to rely on it too much and the users need to be properly trained.)

【解答の傾向】

正答率は高かった。文章の後半部で、自動運転による認知負荷低減の欠点と、それを補うた

